

日本スペイン協会代表理事賞の受賞にあたって

青井 健一

仕事でトラブルがあり、落ちた気分で帰宅する途上、受賞を知りました。丁寧なメッセージで褒めていただき、疲れも不安も吹き飛ばほどの大きな喜びを感じ、誠に感謝しております。昨年、検定に合格した喜びを忘れていたところに今回の受賞の知らせが届くという、年をまたいでサプライズで、受検のコストパフォーマンスも最高です。

昨夏、池袋のとあるビルで口述試験を受けたのが、検定の最後の場面でした。今思い返しますと、あつという間に時間が経過してしまうほど聞き上手な面接官で、特に感じのよさ、話し方の丁寧さから、好感を持ち、安心して、話すことができました。調子に乗せられ、話を広げ、大層な結論に至った後、面接官の関心を示す巧さに感心しました。

スペイン語で話すと自分らしくいられるとの話を受賞者の声で聞いたことがあります。私も同じで、スペイン語で話しているとき、独特の安心感、大らかさを感じ、相手と考えを同期化できるような感覚になることがあります。スペイン語は調整力、受容力を高めてくれる言語です。また、不思議とこの面接以降、職場でのコミュニケーションでも、衝突することなく、指示方針を伝え、伝えられることができるようになったと感じており、検定料金以上の自己啓発セミナーを受けた感じがします。

父の仕事の都合で、0歳から5歳までスペインのマドリードで過ごしました。その縁で、大学での第二外国語はスペイン語を選択し、辛うじて単位を取得するも、活用も多く、使いこなすには厳しかったのが実情です。とはいえ、父母が「健一が最初に覚えたのはスペイン語だったよ」などと話すのを聞き、いつか話せるようになりたいと、ずっと胸の内に秘めていました。大学を卒業してから27年、自分の仕事の都合で、仏語圏から帰国後、スペイン語を再開し、猛勉強の末、今回の受賞に至りました。ちょうど癌の手術を無事終え、退院直後の父に、そして、父を支える母等に朗報を伝えさせていただき、親孝行が間に合いました。全てに感謝しています。スペイン語を向上させ、検定を活かして、いつの日か南米で働き、さらに親孝行するのが、これからの目標です。